

施工前と後



出入り口は、廊下まで延長でフローリングとし、冷たい雰囲気だった黒いタイル壁は白いクロス張りに変えた



浴室は段差をなくし、滑りにくい床材を使用したユニットバスに、立ち座りしやすいシャワーの位置に縦型の手すりを取り付けた



脱衣室のイス(右写真)は、朝シャンパーをするTさんに合わせたオーダーメイド



高齢になっても 安心して暮らしたい

⑧
結果、介護保険で水回りの段差解消・室内外の手すりを設置することに。そのほか、将来を見据え暮らし心構を高めるため、便器の交換や浴室の取り替えを実施で行った。



手すりを使い、玄関に入る手すり。手すりは改修前に動きを確認し、位置を調整した

(施工/仰ラムハウジング)
Tさんは「室内を移動するのが億劫だったけど、転ぶ心配がなくなって、トイレにもお風呂にも行きやすくなった」と、生活しやすくなったようだ。

小さな段差が、入院のきっかけになってしまうことも。外出先で転倒した後、段差解消など自宅を改修をしたTさん宅の事例を紹介する。(栄野川里奈子)

Tさん(80)の状況
一戸建てに、息子夫婦と3人暮らし。外出先の小さな段差につまづいて転び、右大腿部頸部を骨折。4カ月ほど入院を回復したものの、歩行には杖が必要となった。要支援2?

Tさん宅は、築33年の2階建て。骨折以来、小さな段差は恐怖心を持つようになり、介護保険を利用して段差の解消や手すりの設置を希望した。家族とケアマネジャー、施工会社が立ち会って行われる事前調査で、生活動作や住宅の状況などを確認し、検討。その結果、介護保険で水回りの段差解消・室内外の手すりを設置することに。そのほか、将来を見据え暮らし心構を高めるため、便器の交換や浴室の取り替えを実施で行った。

一新。トイレ内には、Tさんの身長に合わせて、移動用に横型の手すりとし、座位を安定させるための縦型の手すりを一本ずつ取り付け。手すりの材は温かみのある木とした。
段差のある浴室や脱衣室はフローリングに、洗面台は将来を考慮、車イス対応に変えた。浴室のドアは、開き扉から開け閉めしやすく空間を広く取れる引き戸にした。

トイレ内外の段差を解消 転倒防止へ手すり設置 明るく

屋内外と水回り材質違う手すりを

手すりの材質を選ぶ際は、屋内と屋外、屋内では水回りとするのほかに場所に分けて考える。「手すりには樹脂製や木、ステンレスなどの材質があり、耐久性のほか、使っている時の感触や、室内となじむかどうか、夏ぶ時の重要な要素の一つ」と仰ラムハウジングの川上優代表。
開風を受ける屋外では、耐久性が強く日が当たっても熱くなりにくい材質が適している。水回りに必要だ。一方、廊下や階段の手すりは、インテリアや質感などにも配慮が必要となる。
Tさん宅では、屋外は耐久性が高く熱くなく、屋内は触り心地の良い木、水回りでは樹脂製の手すりを採用している。